

農林漁業現地事例情報

15 魅力ある農山漁村づくり（平地農業地域）

「しろいしテンペ」で町おこし [佐賀・白石町]

情報収集官署名：九州農政局 武雄統計・情報センター
☎ 0954-23-0171

[取組主体]	
名 称	しろいし特産物直売所テンペ加工部
取組の範囲	杵島郡白石町
開始年度	平成6年度
[補助事業]	
交付主体	国
補助事業名	平成16年度 農業生産総合対策条件整備事業

1 取組目的と概要

(目的)

大豆の消費拡大と特産品の開発で町おこしを図る。

(概要)

白石町では、米の生産調整に伴い、昭和53年から大豆の作付けが増加した。

このため、同町では昭和63年に転作大豆の消費拡大と町の特産品開発を目的として、町、JA、農業改良普及センター、学識経験者などのメンバーで構成する「白石町地場産品開発推進協議会」を立ち上げ、味噌、豆腐以外に大豆を使った新たな加工食品の検討を重ね、平成元年から「テンペ」（煮大豆にテンペ菌（リゾブス菌）を加え、一日かけて発酵させた鉄分やカルシウムなど栄養価の高い食品）の試作・製造を始め、平成6年に商品化に成功した。

その後、積極的な広報活動により徐々に販路を拡大し、これまで民家を間借りして加工していたが、16年11月には国の補助事業による専用の処理加工施設が完成、「しろいし特産物直売所テンペ加工部」の名称で本格的な活動を行っている。

加工作業は、生産農家の主婦を中心とした構成員14名がローテーションを組み、常時5名体制で作業を行っている。



<- 直売所兼加工施設の外観 ->



<- しろいしテンペ ->

2 取組の効果

(効果)

製造開始当初（6年）の販売先は、給食センターと保育園のみで、販売量は100kgであったが、積極的な広報活動の結果、地元直売所をはじめ、料理教室やレストラン、町外のJA関連農産物直売所、佐賀市内の百貨店などに販路を拡大し、14年度は1,875kg、15年度は4,153kgの販売量となった。16年度の製造販売計画量は、7,055kgを予定している。

原料の大豆は100%地元産「むらゆたか」を使用しており、消費拡大につながると同時に「しろいしテンペ」を特産品として定着させることで町おこしの一端を担っている。

3 現在の課題と今後の展開方向

(課題)

消費者の「テンペ」に対する認知度は未だ十分とはいえず、広報手段がさらなる消費拡大のカギとなっている。

一方、現在の作業人員は5名で、生産農家の主婦を中心とした構成員14名がローテーションを組んで作業しており、製造量の大幅な増加となれば労働力不足の心配がある。

(展開方向)

パンフレットによる広報活動を行うとともに、直売所には「テンペ」を使った惣菜や軽食コーナーの設置、新しい2次加工食品の研究・開発なども検討している。作業面では、構成員の増員も考慮しつつ、効率的な作業体系への見直しを行う予定である。